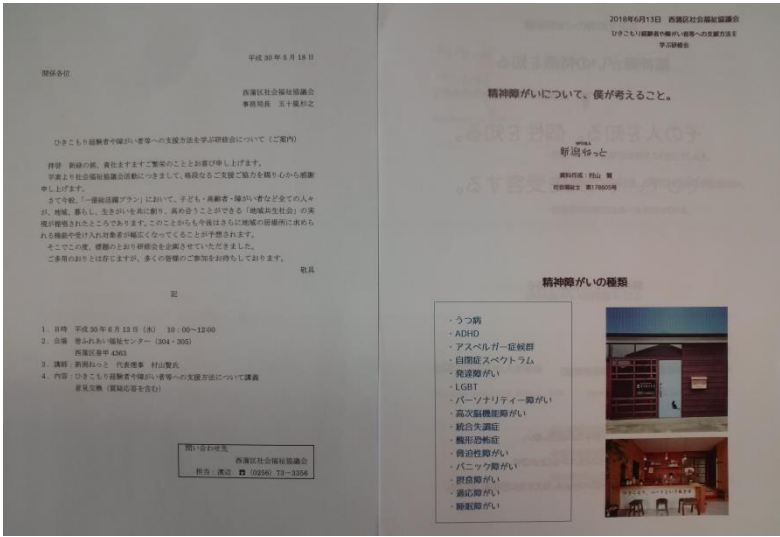


ひきこもり経験者や障がい者等への 支援方法を学ぶ研修会に参加



講師

NPO法人 新潟ねっと 村山 賢 氏



【講師紹介】

新潟市西区で「イツモトコ」という居場所を運営し、引きこもり家庭の支援など若者支援に取り組む実践者。

また、新潟市から生活困窮者自立支援法に基づく就労準備支援事業の受託を受け、就労支援にも取り組んでいる。

研修会プログラム

○開会挨拶

西蒲区社会福祉協議会 事務局長 五十嵐

○講義

「ひきこもりや精神障がいを抱える方への支援」

NPO法人 新潟ねっと 代表理事 村山賢 氏

○質疑応答

○情報交換

「地域で孤立している方が行きやすい茶の間って」

○閉会

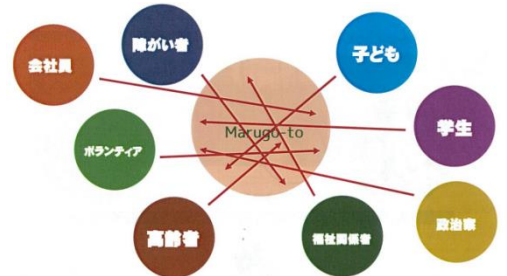
西蒲区支えあいのしくみづくり推進員 塩澤

研修内容(支援のポイント)

- 精神障がいの特徴を知ったうえで・・・「その人を知る。個性を知る。そして、その人を受容する」ことが大切。100人いれば100通りの支援があるということ。
- 支援の場面では、**最小限の指示で伝える**ことを意識して関わる。そのことが「彼ら自身が考え、行動すること」につながる。過度な配慮をせずに、失敗(間違い)が起これば、その場で伝えることで、**学習をする機会**が生まれ、彼ら自身の力になる。
- ひきこもり、元ひきこもりの人との**会話は『今』を大切にする**。
〈回答に困る質問例〉
 - ・どうしてひきこもったの?という無意味な質問(過去)
 - ・これからどうするの?という無意味な質問(未来)
- 俺たちが若かったころは・・・という**回顧主義**は通じない。
- ひきこもりに効く特効薬はない。ひきこもりに効く薬があるとすれば・・・、**複数の人との親密な人間関係を持つこと**。
- 居場所での関わり方は、**支援をしようとする発想は持たない**。居場所に来ているだけでも、本人たちには相当な力になっている。

ソーシャルインクルージョンという考え方

全ての人々を孤立や孤立、排除や摩擦から保護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み、支え合う。



誰でも来ていい『ごちや混ぜ』の居場所

講師資料から引用

情報交換(4グループでの内容)

【講義の感想の共有】

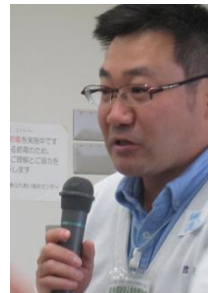
- 居場所の運営側も今日のような学習の機会が大切だと実感した。

【みんなの居場所にするための課題】

- 様々な方に来てもらうためにも、接点づくり(情報)をどう届けるかが課題となっている。

【参加してもらった後での課題】

- 居場所に来てからの、その人にとっての「安全・安心」を確保することも大事。
⇒例)参加できるプログラムがある
一人になれる空間(スペース)がある
「帰る」という選択肢が保証されている



編集後記

今回の研修会の意義は「知る」ことの大切さ(第一歩)にあったと思う。学習の機会があることで、実際に居場所で様々な方と出会った時に、その「知る」が更に深まっていく。「知る」の積み重ねが居場所のアップデートにつながるという好循環につながっていく。